

ふくい社会福祉

ふれあいネットワーク

1

No.408



温故知新 ～一途に社協道～



福井県指定無形民俗文化財 日向水中綱引き

日向青年会 会長 志賀 司 さん（美浜町）



日向地区は美浜町の北西部にあり三方五湖のひとつである日向湖畔を中心に集落が形成されています。また、日本海若狭湾にも隣接していることから、昔から漁業が盛んで、冬の大敷網漁（大型定置網）では毎年寒ブリがたくさん獲れ、賑わいを見せます。

そんな美浜町日向で行われる水中綱引きは、海上安全と豊漁を祈願する行事として今も脈々と次世代に受け継がれています。

この水中綱引きが行われるようになったのは、今から約 360 年前であるといわれています。昔日向と若狭湾を繋ぐ運河に大蛇が出て川を塞ぎ、日常生活に

支障をきたしました。そこで、蛇は自分より大きいものを恐れる性質があるということで、村人が藁で大きな綱を造り常時運河に張っておいたところ、その後、大蛇は出なくなりました。このことから、その縁起の良い綱に少しでも触れようと海中で引き合ったのが、由来として語られています。

水中綱引きの当日は、早朝より若者たちが威勢のいい掛け声とともに直径 30 センチ、長さ 40 メートルの大綱を練り上げます。この綱は午前中に日向湖と日本海を結ぶ運河に渡されます。また、その周りには色とりどりの大漁旗を飾ります。その旗が日本海の強風に煽られながらも力強くはためく姿は圧巻であり、見どころの一つです。

その後、村の代表者が水中綱引きの安全祈願のために宇波西神社に参拝し、午後 2 時頃、多くの観光客に見守られるなか色とりどりのハチマキとさらしの腹帯に白パンツ姿の若者たちが日向湖付近の太鼓橋の欄干の一番高いところから次々と極寒の川へ飛び込みます。そして、泳いで東西に分かれ大綱を引きちぎります。20 分程でどちらか一方の綱が切れ、その綱を海の神に奉げるために外海に流します。

参加する人数が減少した時期もありましたが、近年は参加する若者が増えてきましたし、この行事に参加するために県外から帰省する者もいます。

今後も古くからの慣習や伝統を重んじ大切に守り、受け継いでいきたいと思います。

温故知新

1 年を通して行われる祭りには「祈りや感謝そして願い」といった人の願いがこめられています、だからこそ代々受け継がれてきた祭りを大切に守り、次世代へと繋いでいます。

そのことを踏まえ、地域と密接な関わりがある祭りに焦点を当て、福井県内の祭りをシリーズで掲載していきます。



この広報紙は共同募金の配分金を受けています。

平成二十七年 新年のご挨拶

社会福祉法人 福井県社会福祉協議会
社会福祉法人 福井県共同募金会
福井県民生委員児童委員協議会

会長 清川 忠



新年明け
ましておめ
でとうござ
います。

旧年中
は、本会事
業の推進に
多大なご理
解とご協力を賜り厚くお礼申し上げ
ます。

さて、近年の社会情勢や度重なる
自然災害などを通じて、人と人との
つながりや地域社会での支え合いと
いう「絆」の大切さが再認識されて
います。そのことは同時に、地域で
住民相互の支え合いの仕組みづくり
を進め、様々な地域の福祉課題の解
決に向けて取り組みを進めていく社
会福祉協議会の役割や活動が、これ
まで以上に期待されているところで
もあります。

本年も、誰もが住み慣れたところ
で安心して暮らすことのできる地域

づくりと本県の福祉向上のために、
役員一同さらなる努力を続けて参
りますので、一層のご支援・ご協力
を賜りますようお願い申し上げます。

社会福祉法人 福井県社会福祉協議会

副会長 村上 哲雄



年頭にあ
たりまして
一言ご挨拶
申し上げます。

近年、私
たちの身近
な地域で顕
在化してきて
いる様々な
生活課題に
対し、住民
誰もが当事
者として関
わり、地域
ぐるみで解
決に取り組
むといった
地域福祉の
推進が一層
求められて
おります。

本年も福祉関係者をはじめ、他の
あらゆる分野の方々のお力添えを頂
き、知恵と工夫を出しあい、これか
らの新しい福祉のまちづくり、地域
づくりに取り組んで参りますので、

引き続きご支援・ご協力を賜ります
ようお願い申し上げます。

社会福祉法人 福井県社会福祉協議会

副会長 齋藤 多久馬



良い新年
をお迎えの
こととお慶
び申し上げます。

福祉も更
に変わろう
としていま

す。未来を良くするには皆で考え、
議論することが求められるのです
が、何が理想かを見極めることは容
易な事ではありませんし、何が正し
いか議論をして探ることも、議論の
中に嘘、偽り、摩替えが混ざるので
容易ではないのです。過去に学習し
た概念への固執が自由思考を妨げる
ことも無いとはいえません。古いも
のは、先人の知恵の集積なので大事
にしなければならぬのですが、自
分で考えることも大切なのです。こ
う考えてきますと、福祉の原点は小

学校で学んだ、誠の心、思い遣りの
心に行き着くのかもしれません。
本年が良い年でありますよう祈つ
ております。

社会福祉法人 福井県社会福祉協議会

副会長 伊藤 靖朗



謹んで新
春のお慶び
を申し上げます。

私たちの
暮らしを見
渡せば、と
りわけ、地

域での孤立や引きこもり、孤独死、
貧困、格差、更には、虐待、DV等
の厳しい家族問題、生活問題が社会
に広まる中、これらを少しでも対処
する為に、福祉制度の拡充や福祉支
援を必要とする人々に対し、今年一
年セーフティネットとしての役割を
社協一丸となり、果たして参りたい
と思います。

どうか、本年も皆様方の温かいお
力添えを賜りますよう、心からお願
い申し上げます。

ラジオ放送講座 「いきいきセミナー」を受講しませんか

毎週日曜日 午前6時30分から7時放送 FBCラジオで放送中

FBC ラジオ
福井 864kHz
敦賀・小浜 1557kHz

ラジオ放送講座「いきいきセミナー」は、毎週日曜日の身近なラジオを通じて自宅にいながら、県内外の著名な方々の講話を聴き、知識や教養を高めていただくだけでなく、これからのライフスタイルをより豊かなものにしていただける内容となっています。

講師

講師は、宗教・歴史・経済・社会・科学・医学・農林水産業・スポーツ・地域活動など各分野でご活躍の方々です。1年間を通じて多分野にわたる講話を楽しんでいただけます。

費用

月額4000円の受講料をお支払いいただく、事前に毎月1か月分の講座の資料を掲載したテキストをお届けします。で、予習・復習ができます。また、受講後の感想文を提出すると私どもの講師から返事をお送りします。

特典

さらに、ラジオの聴講だけでなく、講師の講話を直接聴き、受講生同士が意見を交換できるスクーリングを無料で受講できます。

おためし受講制度

まずは、聴いてみよう！

これまでに一度も受講生登録をしたことのない方を対象に、おためし受講を実施します。

事務局まで電話等で「おためし受講」と伝え、「氏名」「住所」「電話番号」をご連絡ください。テキスト1冊（1か月分）と受講案内をお届けいたします。

1か月間、受講生と同じようにテキストを見ながら聴講いただけます。

講話内容紹介

(平成26年度第17回から抜粋)

百二十万の物語

(公財) 丸岡文化財団

常務理事

大廻 政成

「日本一短い手紙」誕生から、二十二年目になりました。これまでに寄せられた手紙も百二十万通を超えました。

第一回の「母」に始まり、「家族」「愛」「父」・・・と回を重ね、平成二十六年第二十二回は「花」をテーマにして募集を開始しています。「東日本大震災」の時にはテーマを急遽「明日」に変更し、「ありがとう」「わすれない」と三年間手紙による心の支援活動も行いました。

「明日」では、「行方不明の娘へ」と題された作品で、あの日の恐怖、絶望、何もなく散歩の途中と想っています。明日は帰って、愛犬と共に。岩手県六十一才の女性です。

「ありがとう」では、「赤ちゃんへ」と題された作品で、仮設内に元氣な赤ちゃんの声が聞こえるようになった。皆で耳をかたむける。ありがとう。宮城県六十九才の男性です。

「わすれない」では、「東日本大震災へ」と題された作品で、「あの恐怖は忘れられない。しかし、その恐怖に打ち勝った家族の絆は絶対に忘れない。」福島県十五才男性です。

一口に百二十万と言っても、そこには様々なドラマがあります。喜びや悲しみに満ちあふれています。「これまでに一番心に残っている手紙は何ですか。」とよく聞かれます。立場上私だけがほとんどの手紙に目を通しますが、逆にあまりにも多くの手紙に対し、叫びだとかおもいでを共有することになりますので、どれか一つとなるとなかなかです。それでも最初「母」とした理由が自分の母につながるもので「お母さん私を生んでくれてありがとう お母さんの子に生んでくれてありがとう」この手紙になると思います。

私の母は私の三十代に亡くなりました。それも突然に私の出勤時突然倒れたのです。そのまま四日目でした。眠るような最後でした。後日母の遺品を整理していると、宝物のように大事にしていた柳ごおりの中から手紙の束が出てきて私はその時号泣しました。東京で親不孝ばかりしている頃の唯一の私の「わび」で

した。約百通のわび状をなぜ母が思ったら涙が止まらなくなったのです。父も後を追うように亡くなりましたが、父の二十五年間の日記に私の名前が無い日が無いくらい日記でした。同じように泣きました。

生きることとはとても大事ですが、手紙の持つ「力」を私は信じるようになりました。短い手紙でも心を込めたものは岩をも動かすように思います。百二十万が百五十万になり二百万になる日が来るかもしれません。一通一通にこもる大切な人の心を見逃さないようにしなければなりません。ぜひ皆さんも手紙を書き続けて下さい。「ありがとう」のひとつでもいいんです。

月	日	氏名	所属	テーマ
1	11	雪次郎	東京都公認・ヘブンアーティスト歌手	80歳 人生は歌う旅
	18	高嶋 康子	福井県立すこやかシルバー病院看護部長	認知症力フェ心愛(ここあ) 健やかな交流
	25	藤井 康弘	(医)聖仁会 藤井医院院長 (福)双和会理事長	楽しく老いる
2	1	笠松 雅弘	福井県立こども歴史博物館館長	懐かしき蓄音機の音色を一緒に
	8	高井 時男	NPO 法人近江福祉会理事 元あさくら苑副施設長	私が考える老人ホーム
	15	出倉 弘子	食のよろず研究所所長 料理研究家	男の料理は家庭円満
	22	豊永 真誠	(福)小浜市社会福祉協議会事務局長	ハンセン病への取り組みと人権問題

過去2年間の研修成果を活かす

災害時に機能する協働ネットワークを構想

去る12月12日（金）、福井県立図書館で開催された「北陸3県内社協職員災害支援合同研修会」には、3県から58名（本県31名）の社協職員が参加しました。

研修は、大規模災害時における北陸3県内社協の相互支援体制を強化することを目的に、平成24年度から開催しているもので、今年で3年目になります。

過去2回の研修では、おもに社協ネットワークによる広域支援活動のあり方を探っていましたが、これらの支援活動が被災地域内で展開される活動とどう整合するかが課題となっていました。

地域での協働ネットワークづくりがテーマ

近年、自治体区域での「災害ボランティアセンター連絡会」（以下「連絡会」）等のネットワーク組織づくりが進んでいます。

そこで、今回の研修では、昨年の「台風18号豪雨災害」で被災地支援活動に関わった小浜市での取り組みを手がかりに、①社協による重層的な支援と整合する地域の協働ネットワークのあり方を探ること、②平時からの災害支援ネットワークづくりへの動機づけを高めることを主題としました。

ネットワーク組織の「即応性」と「機動性」

最初のトークセッションでは、昨夏の台風18号豪雨災害時に「小浜市災害ボランティアセンター連絡会」

が運営した水害ボランティアセンターのコアメンバーである小浜市市民協働課主査の芝和繁氏、小浜市社協事務局長の豊永真誠氏、NPO法人WACおば



トークセッションの様子

ま理事長の鳥居直也氏の3氏に登壇いただき、当時の状況などについて発表していただきました。

3氏からは、連絡会の構成メンバーが互いの持ち味を活かしながら、それぞれの強みを活かしてセンターの運営にあたったこと、平時から連絡会での情報（課題）共有や意思決定のスピードと機動性を発揮するため、コアメンバーに絞った組織構成にしていること、一方で、地域の既存団体には、被災地最前線での支援活動で役割を担っていただくよ

うな重層的な支援体制をつくっていくことなど、ネットワーク組織のあり方について示唆に富んだ提案がありました。

ネットワーク組織をどうつくるか

続くワークショップでは、「多様なセクターが協働するネットワークの姿を探る」ため、連絡会等の組織化の必要性を社協内部や地域の関係者間で共有していく際に活用できるプレゼンテーション資料づくりを行いました。



プレゼン資料を作成

作業では、災害時のフェーズ（局面）ごとに展開される地域の支援活動をイメージし、次のポイントでの意見交換をすすめながら資料づくり

をすすめました。

- ① 災害時に役割発揮が期待される団体の整理
- ② 顔の見える関係づくりプロジェクトの企画
- ③ 連絡会組織化のメリットの整理

協働ネットワークの広がりをめざす

今回参加した社協のほとんどは、連絡会等のネットワーク組織が未設置の状況でした。しかし、こうした組織づくりへの関心が高いこともあり、組織化に向けた具体的な手順や解決すべき課題等に関する情報を吸収しようと、終始積極的に受講する姿が印象的でした。



参加者からは「日頃からの関係づくりの大切さを実感した」、「地域福祉を土台に災害支援活動を展開すべきことを再確認した」などの声も聞かれました。

また今回は、ワークショップで作成したプレゼンテーション資料（データ）をその場で参加者に配布するなど、研修成果と実益を意図し

た試みも行い、参加者から好評を得ることができました。



団体の役割整理



顔が見えるプロジェクト提案



連絡会設置のメリット

今後は、地域で協働するネットワークづくりへの動機づけを下敷きに、北陸3県各地での組織化がさらに加速していくことが期待されています。

災害時における社協相互支援実地訓練

災害時における県内社協間の相互支援体制を強化することを目的として、平成19年度から実施している「実地訓練」を、今年度は県内3か所（ブロック）で実施しました。

ボランティア活動者の送り出しといった本番さながらの訓練が行われ、災害時における円滑かつ効果的なセンター運営に向け手順等の確認がなされました。

災害時の社協ネットワークを活かした被災地支援に取り組むため、17の市町村協と県社協による「災害時における社協ネットワークによる相互支援協定」にもとづき、毎年行っているものです。

当日は、災害ボランティアセンターの運営側とボランティア活動希望者役に参加者がそれぞれ分かれ、被災者からのニーズやボランティアの受付、ニーズのマッチング、

	Aブロック (福井・坂井・奥越)	Bブロック (丹南)	Cブロック (嶺南)
訓練日	6月22日(日)	8月31日(日)	11月9日(日)
訓練会場	福井市民福祉会館、 福井市防災センター 	池田町民グラウンド 	敦賀市福祉総合センター、 中郷公民館、 中郷スポーツ広場 
主な訓練内容	●情報伝達訓練（被害状況の確認、応援職員の派遣要請、被災地支援活動状況の報告等） ●災害ボランティアセンターの設置・運営 ●被災地の災害ボランティアセンターへの応援職員派遣		

“神戸希望の灯り”今年も点灯します

1月14日～23日

「1・17 神戸希望の灯り」は、平成7年1月17日に発生した「阪神・淡路大震災（兵庫県南部地震）」の鎮魂とまちの復興を願って、平成12年1月17日から神戸市内に燈され、その年に全国に分灯されました。

震災発生から20年目を迎える今年も、県社会福祉センターでの点灯（1月14日～1月23日）を行います。また、1月13日には、市町村社協トップセミナー（ユアーズホテルフクイ）の席上で点灯式を開催します。



福祉サービスの質の向上をめざして

福祉サービス第三者評価

調査者養成研修
普及・啓発セミナー
を開催

福祉サービス第三者評価は、事業所が福祉サービスの質を高めるため公正・中立な第三者機関から客観的かつ専門的な評価を受け、現状における評価するべき取組や改善に向けた課題を明確にするものです。事業所がこの取組を通じてサービスの現状等を見直し、利用者本位の福祉サービスの提供のあり方について考え、よりよい福祉サービスを提供していくことを実現する有効な手段（ツール）であり、介護・保育分野においては国の規制改革会議で受審率の数値目標を定めるよう提言されるなど、ますますその重要性を増しています。

本会に事務局を置く福井県第三者評価基準等委員会では、第三者評価の担い手である調査者の養成・確保と事業所への啓発を目的に、10月30日（木）、調査者



一陽の橋本統括園長には、受審施設として第三者評価に取組んだ経過と活用、また調査者の質がいかに重要かお話しいただきました。

養成研修および普及・啓発セミナーを実施しました。（養成研修は10月31日、11月18日、および実習を1日間実施。）
普及・啓発セミナーには各事業所から22名が参加、調査者養成研修は24名が全課程を修了し、第三者評価の目的や手法を学ぶとともに、実際に受審した事業所を代表して児童養護施設一陽 橋本達昌統括園長の報告等を受け、利用者に対する支援の質向上に向けた取組みに対して気持ちを新たにしました。

経営者のみなさまへ

福祉施設経営相談室をご活用ください。

最近よせられる主な相談内容

- 新会計基準への移行手続き
- 退職共済の会計処理
- 内部留保（積立金の残高）
- 随意契約
- 経理規程の改定
- 財務諸表の分析
- 職員の募集（看護師、保育士等）
- 認定こども園への移行

施設経営、会計財務等の相談がございましたら、福祉施設経営相談室にお問合せください。

お問合せ先

社会福祉施設経営相談室（福井県社会福祉協議会 福祉サービス支援課）

TEL: 0776-24-2347 FAX: 0776-24-8942

平成27年 「就職内定者応援セミナー」のご案内

主 催： 社会福祉法人 福井県社会福祉協議会(福井県福祉人材センター・福井県社会福祉研修所)

昨年に引き続き本年も、今春(平成27年4月)から福祉施設・事業所で新たに就職をされるご予約の方を対象に、「就職内定者応援セミナー」を実施します。

このセミナーでは、就業前に社会人としての必要な知識やスキルを学んでいただきます。

また、先輩職員の方からのお話や、同じ新社会人として働きはじめる同職種の職員同士の仲間づくりを通じて、社会人としてのライフスキルについて学んでいただきます。



日 時 平成27年3月12日(木) 13:00 ~ 16:30

会 場 福井県社会福祉センター(福井市光陽2丁目3-22)

参加対象 県内の福祉施設・事業所に平成27年4月からの採用が内定している方(定員:100人)

参 加 費 2,000円(予定)

申込方法 お申込みは、福祉施設・事業所様を通じてお手続きください。
※ 福祉施設・事業所様宛に郵送にてご案内させていただきます。

福祉の職場説明・面談会

福祉のお仕事

入場
無料

ふくい福祉就職フェア

日時 平成27年3月1日(日)13:00~16:00

会場 ユー・アイふくい(福井県生活学習館)多目的ホール
(福井市下六条町14-1)

1 職員採用予定の社会福祉施設等との個別面談コーナー
各法人・事業所がコーナーを設けます。
参加された皆さまの簡単なプロフィールをもとに、人事担当者
と直接話ができます。

2 面接対策講座(要事前予約) 11:30~12:30
福祉・介護の職場で働きたい!という意欲はあっても、面接で
意欲を十分に示すのは難しいもの。コーディネーター(専門員)
による講座を受講しませんか?
講義・模擬面接を通じて、福祉介護分野への就職活動における
マナーや面接の心構えを学びます。

**3 福祉の仕事・資格相談コーナー、ハローワークコーナー、
ナースセンターコーナー**
福祉の仕事や資格について、就職について、看護職について等
さまざまなご質問にお答えします。

福祉の仕事お助け隊!
福祉・介護人材マッチング機能強化事業

人から「ありがとう。」
と言われる仕事がしたい!

私の笑顔で利用者の方を
笑顔にしたい!

チームワークが
大切な仕事です。

人の力になりたい。
福祉の仕事をしたい。
そんなあなたを応援します。

移動相談会のご案内 事前申込不要 無料

お近くへお伺いします。お気軽にご相談ください!

個人向け支援

求職登録/職業相談/紹介/就労支援/就職後の相談/キャリアアップ支援

事業所向け支援

人材の発掘/求人登録/人材紹介/人材確保相談支援/定着支援
/経営に関する専門的支援

会場・日時

日程・曜日・時間	会 場	住 所
毎週火曜日 13:00~16:00	武生西公園・別館 1階 講義室	越前市中央2丁目8-16 /ハローワーク武生南側
毎週金曜日 13:00~16:00	大野市職業訓練センター 2階 第2研修室	大野市中狭1-1601-1 /「JAテラル越前」前
毎月 第2・4木曜日 13:00~16:00	福井県生活学習館(ユー・アイふくい) 2階 ふくい女性活動支援センター	福井市下六町14-1 /福井県産業会館側

「第3回ふくいチャリティーアート展」 ご来場ありがとうございました。

11月22日(土)～25日(火)までの4日間、福井カルチャーホールにて「第3回ふくいチャリティーアート展」を開催し、たくさんのお客様にご来場いただきました。

今回の作品販売による収益につきましては、テーマ「未来を支える子どもたちのために」に基づき、児童福祉分野の事業に活用させていただきます。

このアート展の開催にあたり作品をご協賛いただきました県内外の先生方に心よりお礼を申し上げます。



入場無料

寄贈・寄附

誠にありがとうございました。

12月8日(月)

寄贈者 カナカン株式会社 親睦会「乾親会」様
カップラーメン1,200食

贈呈先 県内児童養護施設

12月10日(水)

寄贈者 福井県産業青年連合会(福井市)
デジタルスチルカメラ2台

贈呈先 障害者交流センター野坂の郷(敦賀市)

福井県視覚障害者福祉協会
情報提供センター(福井市)

社会福祉事業の発展のために
活用させていただきます。



第9回 いま、輝く『シニア・アート展』のご案内

趣味を通して生きがい・仲間づくりをしているチャレンジ塾生や地域で活動が続いているアクティブシニア登録者が日ごろの活動の成果を発表する作品展を開催いたします。皆様のご来場をお待ちしております。

日時 平成27年3月6日(金)～8日(日)
10:00～20:00(※8日は18:00まで)

会場 ショッピングシティ・ベル1階北コート
イベント広場

内容 絵画・工芸・書・写真・陶芸等

イベント **ステージ発表**
オカリナ演奏: 3月7日(土)13:30～14:30
合唱&アンサンブル: 3月8日(日)
①11:00～11:45②13:15～14:00

体験コーナー

室内模型飛行機・手工芸(ポーセラーツ、ガラスアート、シルエットアート、タイルクラフト)

オトナのための“あったらいいな”実現塾 塾生募集

「地域の人々が気軽に集える場所があったらいいな」「街の魅力を知ってもらえる仕組みがあったらいいな」など、あなたが考える暮らしの中の“あったらいいな”を実現しませんか?

実現に向けて一歩を踏み出したいけど、何をどうすればいいかわからない。そんな方大歓迎!!個人でもグループでも参加可能です。

入塾対象 おおむね55歳以上のシニア世代の方で、“あったらいいな”実現に向けて行動を起こそうと考えている人

会場 アオッサ6階 601研修室

日時	主な内容
2月10日(火) 10:20～15:30	「あったらいいな」を実現した先輩に学ぼう! 県内外の先駆的な事例を基に、地域の“あったらいいな”を語り合しましょう。 ※アクティブ・シニア交流会と共同開催となります。
2月16日(月) 10:15～15:45	「あったらいいな」実現に向けて必要なものを知ろう! コミュニケーションスキルや地域の支援体制について学びましょう。
2月23日(月) 13:30～16:30	「あったらいいな」を実現するための手法を学ぼう 基本的な考え方の視点やプラン作成の手法を学びましょう。
2月24日(火) 10:00～16:00	「あったらいいな」を実現するためのプランを作り発表しよう 実際にプランを立て(実践)、発表しましょう。

問い合わせ先 すこやか長寿課(電話0776-24-2433)